

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態外科学特別演習Ⅱ		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	<p>(胸部外科学) 虚血性心疾患、大動脈疾患、肺癌、乳癌 (消化器外科学) 消化器癌、癌遺伝子、リキッドバイオプシー (脳神経外科学) 脳卒中、脳腫瘍 (整形外科学) 運動器疾患、病態生理、診断、検査、治療 (形成外科学) 創傷外科 (泌尿器科学) 泌尿器科学 (生殖病態医学) 妊娠高血圧症候群、婦人科腫瘍 (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治療 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症 (皮膚病態学) 皮膚 (口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患</p>		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	<p>(胸部外科学) 教授 西村好晴、准教授 本田賢太郎、講師 上松耕太、講師 平井慶充、助教 宮坂美和子 (消化器外科学) 教授 川井 学、准教授 松田健司、講師 速水晋也、講師 早田啓治、講師 岩本博光、講師 三谷泰之、講師 北畑裕司 (脳神経外科学) 教授 中尾直之、准教授 深井順也、講師 中井康雄、講師 佐々木貴浩 (整形外科学) 教授 山田 宏、講師 長田圭司、講師 石元優々、講師 西山大介、講師 福井大輔、講師 下江隆司 (形成外科学) 教授 朝村真一 (泌尿器科学) 教授 原 勲、准教授 柑本康夫 (生殖病態医学) 教授 井篁一彦、准教授 南 佐和子、准教授 馬淵泰士 (視覚病態眼科学) 教授 雑賀司珠也、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一、准教授 白井久美 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充 (皮膚病態学) 教授 神人正寿、准教授 山本有紀 (口腔顎顔面外科学) 教授 松村達志、講師 鈴木 滋、助教 田坂ゆかり</p>	
	薬		
授業の概要	<p>胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p>		

到達目標	<p>(胸部外科学) 虚血性心疾患、胸部大動脈瘤、大動脈解離の臨床研究のデータ解析法を修得し、呼吸器外科、および乳癌診療における臨床上的問題点について文献的考察を加えて研究結果をまとめることができる。</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌分野における癌の浸潤・転移あるいは抗癌剤耐性などに関する遺伝子解析および腫瘍特異的免疫療法に関するそれぞれのテーマについて専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(脳神経外科学) 脳神経外科学の主要分野である脳腫瘍や脳卒中に関する最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について修得する。</p> <p>(整形外科学) 運動器疾患の病態を理解し、診断・検査法・治療方法について修得する。</p> <p>(形成外科学) 形成外科は創傷外科であることを理解し、卓越した手術手技を修得する。</p> <p>(泌尿器科学) 外国語論文の読み方、解釈方法を理解する。</p> <p>(生殖病態医学) 生殖病態医学に関する最新の知見を学習し、生殖病態医学に関する理解を深める。</p> <p>(視覚病態眼科学) 基礎研究、臨床研究の結果解析から、次なる課題に発展させる能力を修得する。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の感覚・機能・頭頸部腫瘍に関する最新の研究動向を理解し、研究仮説を立て説明することができる。</p> <p>(皮膚病態学) 各種疾患における皮膚の重要性を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患の基礎的、臨床的な研究法を修得する。</p>
授業計画	<p>(胸部外科学) 胸部大動脈瘤の脳保護法、冠動脈バイパス術のグラフト評価法の臨床データの解析と文献的考察による検討を行う。(西村好晴／上松耕太／本田賢太郎) 近年進歩が著しい呼吸器外科の低侵襲アプローチについての講義を行い、文献的考察を通して、研究結果をまとめる。(平井慶充) 乳癌診療における臨床上的問題点を通じて、研究結果をまとめる。(宮坂美和子) (西村好晴／上松耕太／本田賢太郎／平井慶充／宮坂美和子)</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。(川井 学／松田健司) リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。(岩本博光／三谷泰之／北畑裕司) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。(速水晋也／早田啓治) (川井 学／松田健司／速水晋也／早田啓治／岩本博光／三谷泰之／北畑裕司)</p>

<p>授業計画</p>	<p>(脳神経外科学) 脳卒中や脳腫瘍に関する最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解し、臨床データや動物実験結果についてディスカッションを行うことにより、研究結果の解釈法や発表方法についての指導を行う。(中尾直之/深井順也/中井康雄/佐々木貴浩)</p> <p>(整形外科学) 運動器疾患に関する評価、分析を行う。また、臨床研究における倫理的な配慮について指導する。 1. 運動器疾患の臨床研究の手法と倫理 (山田 宏) 2. 頸椎疾患の病態と評価・治療法 (長田圭司) 3. 腰椎疾患の病態と評価・治療法 (石元優々) 4. 股関節・足関節疾患の病態と評価・治療法 (西山大介) 5. 膝関節疾患の病態と評価・治療法 (福井大輔) 6. 上肢の疾患の病態と評価・治療法 (下江隆司) (山田 宏/長田圭司/石元優々/西山大介/福井大輔/下江隆司)</p> <p>(形成外科学) 創傷治癒の理解は、外科学の基本だけでなく基礎研究においても重要である。そのメカニズム及び創傷管理の理解が手術手技の向上につながることを教育する。(朝村真一)</p> <p>(泌尿器科学) 泌尿器科領域に関する論文を読み、内容についてディスカッションする。研究テーマに沿った研究を行い、結果につき議論を行う。論文作成のために必要なことに関しステップ毎にディスカッションを行う。(原 勲/柑本康夫)</p> <p>(生殖病態医学) 生殖病態医学に関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する研究課題を見つけ研究方法について学ぶ。(井篁一彦/南佐和子/馬淵泰士)</p> <p>(視覚病態眼科学) 感染症や外傷後の生体反応などに関するgeneral領域の発表論文を読み、教員と議論することにより知識を深める。論文に掲載されている眼組織生体反応に関する基礎研究、臨床研究の結果解析から、次なる課題に発展させる能力を修得する。(雑賀司珠也/岡田由香/住岡孝吉/小門正英/田中オー/白井久美)</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 聴覚、平衡覚 (河野正充)、嗅覚・味覚 (保富宗城) 人工内耳による聴覚の変化と感覚器研究の最新の研究動向、平衡覚について重心動揺計を用いた解析法と最新の研究動向、嗅覚障害動物モデルによる嗅覚行動検査と嗅覚再生についての最新の研究動向について解説する。 2. 嚥下機能 (玉川俊次) 嚥下障害の病態と評価法、嚥下改善手術の最新の動向について解説する。 3. 頭頸部癌・甲状腺癌 (玉川俊次) 頭頸部癌におけるHPV・EBVによる発癌機序研究、頭頸部癌転移における上皮間葉移行、甲状腺癌における遺伝子変異に関する最新の研究動向を解説する。 4. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症 (保富宗城) 耳鼻咽喉科感染症の難治化と重症化に関する最新の研究動向を解説する。また、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。(保富宗城/玉川俊次/河野正充)</p> <p>(皮膚病態学) 皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。(神人正寿/山本有紀)</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患の臨床的な問題点の抽出及び研究デザインについて解説する。(松村達志/鈴木滋/田坂ゆかり)</p>
<p>授業の方法・形態</p>	<p>演習を中心とする。</p>
<p>使用するメディア</p>	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>

<p>授業時間外の学修に関する指示</p>	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）</p>	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>(胸部外科学) 特に指定しない。</p> <p>(消化器外科学) 【教科書・参考書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(脳神経外科学) 特に指定しない。</p> <p>(整形外科学) 特に指定しない。</p> <p>(形成外科学) 【参考書】「創傷外科」 監修：波利井清紀、野崎幹弘 出版社：克誠堂</p> <p>(泌尿器科学) 特に指定しない。</p> <p>(生殖病態医学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(視覚病態眼科学) 特に指定しない。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】「新耳鼻咽喉科学」著者：切替一郎 監修・編集：野村恭也、加我君孝、出版社：南山堂 英文誌「Laryngoscope」 出版社：Wiley Online Library</p> <p>(皮膚病態学) 【教科書】「あたらしい皮膚科学」 著者：清水宏 出版社：中山書店</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>